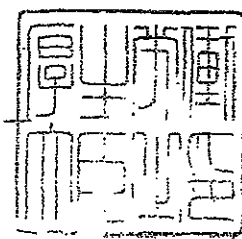


厚生労働省発食安第0918001号  
平成20年9月18日

薬事・食品衛生審議会  
会長 望月 正隆 殿

厚生労働大臣 舩添 要



諮 問 書

食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき、下記の事項について、貴会の意見を求めます。

記

次に掲げる農薬の食品中の残留基準設定について

クロチアニジン



平成20年12月18日

薬事・食品衛生審議会

食品衛生分科会長 吉倉 廣 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会

農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会

農薬・動物用医薬品部会報告について

平成20年9月18日厚生労働省発食安第0918001号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくクロチアニジンに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。



(別添)

## クロチアニジン

1. 品目名：クロチアニジン (clothianidin)

2. 用途：殺虫剤

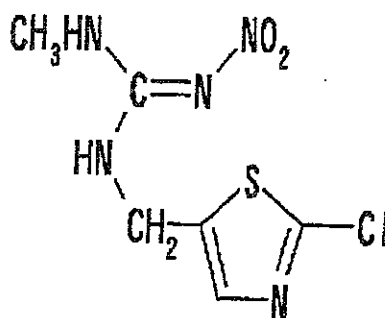
ネオニコチノイド系殺虫剤である。作用機序は、主にニコチン性アセチルコリン受容体アゴニスト作用によるものと考えられる。

3. 化学名：

(*E*)-1-(2-chloro-1, 3-thiazol-5-ylmethyl)-3-methyl-2-nitroguanidine (IUPAC)

[*C* (*E*)]-*N*-[(2-chloro-5-thiazolyl)methyl]-*N'*-methyl-*N''*-nitroguanidine (CAS)

4. 構造式及び物性



分子式	C <sub>8</sub> H <sub>8</sub> ClN <sub>5</sub> O <sub>2</sub> S
分子量	249.68
水溶解度	0.327 g/L (20°C)
分配係数	logPow = 0.7 (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用法は以下のとおり。

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメシロ類 イネノメイシ	4000倍	60~150 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、 本田では3回以内)
	ウンカ類 カメシロ類 イネノメイシ	1000倍	25L/10a				
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ フオビコヤカ	200倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり 500mL	移植3日前~ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	
	イネノメイシ イネノゾウムシ	200~ 400倍					
きゅうり	シシトウアザミウマ アブラムシ類 コジラミ類	2000~ 4000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)
メロン	アブラムシ類	4000倍					
	コジラミ類 シシトウアザミウマ	2000~ 4000倍					
	トマトハモグリバエ	2000倍					
すいか	アブラムシ類	4000倍	2000倍				4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
	シシトウアザミウマ ウリハムシ						

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数		
なす	シシイロアザミマ ハモグリハエ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)		
	アブラムシ類 マメハモグリハエ コジラミ類	2000～ 4000倍					4回以内 (鉢上時の株元処理、育苗期後半の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)		
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コジラミ類	2000倍					3回以内	2回以内	3回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
	ハモグリハエ類								3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、は種後は2回以内)
ピーマン	アブラムシ類 コジラミ類	2000～ 4000倍		収穫7日前まで	2回以内		3回以内 (育苗期の株元処理は1回以内、散布は2回以内)		
	シシイロアザミマ	2000倍					3回以内 (は種時の散布、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)		
だいこん	アブラムシ類	2000～ 4000倍		収穫3日前まで					
レタス	ハモグリハエ	2000倍							
キャベツ	アブラムシ類	2000～ 4000倍							
	アオシ コガ	2000倍							

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農業の総使用回数
ねぎ	ネギアザミヤ ネギハモグリバエ	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	4回以内	散布	4回以内 (植付時の植溝処理は1回以内、株元散布は2回以内)
ばれいしょ	アブラムシ類	4000倍 1000倍	25L/10a	収穫7日前まで	3回以内		4回以内 (植付時の土壌混和は1回以内、植付後は3回以内)
	テントウムシガムシ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a				収穫14日前まで
てんさい	カメノコハムシ テントウムシガムシ アブラムシ類	100～ 200倍	1L/ペーパー ポット1冊 (3L/m <sup>2</sup> )	定植前	1回	苗床灌注	
	豆類 (種実、ただし、だいず、らっかせいを除く)	アブラムシ類	2000～ 4000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
だいず	マシクイガ	2000倍	100～300 L/10a				
	アブラムシ類 カメノコハムシ フタスジヒメハムシ	2000～ 4000倍					
かぼちゃ	アブラムシ類	2000～ 4000倍	収穫3日前まで				
にがうり	シメキイロアザミヤ		収穫前日まで				
チゲンソイ	アブラムシ類		収穫14日前まで				



(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数		
みょうが (花穂)	ナシコカイラムシ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布、但し 花穂の発生期には 70%以上被覆により 散布液が直接 花穂に飛散 しない状態 で使用する	3回以内		
みょうが (茎葉)				みょうが (花穂) の収穫前日まで 但し、花穂を収穫 しない場合にあっては 開花期終了まで					
みずな	アブラムシ類	2000～ 4000 倍		収穫7日前 まで					
オクラ				収穫前日 まで					
れんこん	クワイビレアブラムシ			収穫7日前 まで					
えだまめ	アブラムシ類 カメムシ類	2000 倍		収穫3日前 まで				散布	4回以内 (は種時の 散布、育苗期 の株元処理 及び定植時 の植穴処理 土壌混和は 合計1回以内、 散布は3回以内)
ブロッコリー	アムシ								
	アブラムシ類		2000～ 4000 倍						
にら	ネギアザシヤ アブラムシ類	3回以内							

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
非結球ワタ	アブラムシ類	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内		3回以内 (育苗期の株元処理は1回以内、散布は2回以内)
	ナメクジハエ	2000倍					
アスパラガス	アブラムシ類 ネメトフィトフィト ジヨウジクハカハムシ	2000～4000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
りんご	カメムシ類 キンモンホリガ キンモンナメクジリガ シクイムシ類 アブラムシ類 コカイバラムシ類 リンゴワタムシ ケムシ類			収穫前日まで			
なし	シクイムシ類 アブラムシ類 コカイバラムシ類 カメムシ類 ケムシ類			収穫前日まで			
すもも	アブラムシ類	4000倍		収穫3日前まで			
もも	アブラムシ類 モモホリガ シクイムシ類 カメムシ類	2000～4000倍		収穫7日前まで			
	コカネムシ類	2000倍					

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数						
おうとう	オウトウショウジヨウハ <sup>エ</sup> カメシ類	2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内						
うめ	ケシ類	2000~ 4000倍		収穫7日前まで	3回以内		散布	3回以内					
	アブラムシ類 カメシ類			収穫前日まで									
ぶどう	コカイガラムシ類 チャノキイロアザミマ フタデヒメコバイ	2000倍		収穫7日前まで					3回以内	散布	3回以内		
かんきつ (みかんを除く)	ミカンハエ ミカンキジラミ	2000倍		2000~ 4000倍	収穫7日前まで							3回以内	散布
	アブラムシ類 ミカンモグリガ アザミマ類 ケシキイ類 コアオナムグリ ツノロウシ	2000~ 4000倍											
みかん	コカイガラムシ類 ゴマダラミキリ カメシ類 アゲハ類 アカムシガラムシ	2000倍	100mL/樹	収穫150日前まで		1回							
	ミカンハエ ミカンキジラミ	2000倍											
かんきつ (苗木)	ミカンモグリガ ゴマダラミキリ	20倍	10~ 100mL/樹	春芽・夏芽 又は秋芽 の発生前	3回以内	散布	3回以内						
	カキヒメコバイ	4000倍	200~700 L/10a	収穫7日前 まで									
かき	チャノキイロアザミマ カキタアザミマ コカイガラムシ類 カキハナムシガ カメシ類	2000~ 4000倍			200~700 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内				

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
マンゴー	アザミヤ類 コカカイラムシ類	2000～ 4000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
いちじく	アザミヤ類			収穫3日前まで			
ネクタリン	アブラムシ類 モモモグリガ シクイムシ類 カメムシ類						
		コカネムシ類	2000倍				
あんず	アブラムシ類	4000倍					
とうがん	ミナキイロアザミヤ	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで			
食用へちま	アブラムシ類						
パパイヤ	カカカカイラムシ ヒラカカカイラムシ		200～700 L/10a	収穫3日前まで			
茶	チャノキイロアザミヤ チャノミドリヒメヨコバイ チャノホカ	2000～ 4000倍	200～400 L/10a	摘採7日前まで	1回		1回
		コシロアブラムシ					

(2) 1.0%クロチアニジン1キロ粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (但し本田期は3回以内)

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、本田では3回以内)	
	カメシ類	3~4kg/10a					
稲 (箱育苗)	イネノコイシ イネノゾウムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	移植3日前 ~ 移植当日	1回	育苗箱の 苗の上から均一に 散布する	4回以内 (育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計1回以内、散布 は3回以内)	
きゅうり	コナジラミ類 アブラムシ類 シメキイロサシムマ	1g/株	育苗期後半		株元処理		
	コナジラミ類	1~2g/株	定植時		植穴処理 土壌混和		
	アブラムシ類	1~2g/株					
	シメキイロサシムマ	2g/株					
すいか	アブラムシ類 シメキイロサシムマ	1~2g/株					4回以内 (定植時の土壌 混和は1回以内、 散布は3回以内)
メロン	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株	育苗期後半		株元処理		
	コナジラミ類	1~2g/株	定植時		植穴処理 土壌混和		
	アブラムシ類						
	シメキイロサシムマ トマトハモクリハエ	2g/株					4回以内 (育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計1回以内、散布 は3回以内)

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
なす	アブラムシ類 コジラミ類	1g/株	育苗期後半	1回	株元処理	4回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壤混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	アブラムシ類 マハモクグリハエ コジラミ類		定植時		植穴処理 土壤混和	
トマト ミニトマト		1~2g/株			株元処理	4回以内 (鉢上時の株元処理、育苗期後半の株元処理及び定植時の土壤混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	アブラムシ類 コジラミ類	1g/株	育苗期後半 鉢上時		株元処理	
	トマトハモクグリハエ	2g/株	定植時		植穴処理 土壤混和	
だいこん	アブラムシ類	3~6kg/10a	は種時		播溝処理 土壤混和	3回以内 (は種時の土壤混和は1回以内、は種後は2回以内)
レタス		0.5g/株	育苗期後半		株元処理	3回以内 (育苗期の株元処理は1回以内、散布は2回以内)
非結球レタス						
キャベツ	アブラムシ類 ハマダラメイガ	0.25g/株	は種時		覆土後セル 成型育苗トレイの上から 散布する	3回以内 (は種時の散布、育苗期の株元処理及び定植時の土壤混和は合計1回以内、散布は2回以内)
	ネリムシ類 コガ アムシ ハマダラメイガ	0.5g/株	育苗期後半		株元処理	
	アブラムシ類	1g/株	定植時	植穴処理 土壤混和		
	ハマダラメイガ	1~2g/株				
	コガ アムシ	2g/株				

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	アブラムシ類 ハマダラカメガ	0.25g/株	は種時	1回	覆土後セル 成型育苗トレイ の上から 散布する	4回以内 (は種時の散布、 育苗期後半の株 元処理及び定植 時の土壌混和は 合計1回以内、散 布は3回以内)
	コガ アオムシ アブラムシ類	0.5g/株	育苗期後半		株元処理	
	アブラムシ類	1g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	コガ アオムシ	2g/株				
ねぎ (露地栽培)	ネギアザミ ネギハモグリバエ	6kg/10a	植付時	2回以内	植溝処理 土壌混和	4回以内 (植付時の植溝 処理は1回以内、 株元散布は 2回以内)
		3~6kg/10a	収穫21日前 まで		株元散布	
ばれいしょ	アブラムシ類	6kg/10a	植付時	1回	植溝処理 土壌混和	4回以内 (植付時の土壌 混和は1回以内、 植付後は3回以内)
かんしょ	コガムシ類				作条処理 土壌混和	
	アブラムシ類	育苗期	株元処理			
ピーマン	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半	1回	株元処理	3回以内 (育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計1回以内、散 布は2回以内)
いちご			定植時		植穴処理 土壌混和	

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
かんきつ (苗圃)	シロハモグリガ	10~20g/樹	育苗期	3回以内	株元散布	3回以内
げっきつ	シロシラミ	30~40g/株	発生初期	4回以内	生育期 株元処理	4回以内
さとうきび	ハカネムシ類	4~6kg/10a	植付時	1回	植溝処理 土壌混和	1回
れんこん	クワイビレアブラムシ	6kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	湛水散布	3回以内
わけぎ (露地栽培) あさつき (露地栽培)	ネアザミヤ ネハモグリハエ	3~6kg/10a	収穫21日前まで	2回以内	株元散布	2回以内

(4) 0.15%クロチアニジン粉剤 DL

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウカ類 ツマゲロヨコバイ カメムシ類	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は 1回以内、本田では 3回以内)
	付ゴ類	4kg/10a				
	イトオイムシ フタホヒコヤガ	3kg/10a				
だいず	アブラムシ類 カメムシ類 フラスジヒメハムシ	4kg/10a	収穫7日前まで			3回以内



(5) 1.5%クロチアニジン箱粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウカ類 ツマゴロコハイ イネミスゾウムシ イネトオイムシ ニカメイチュウ フタオビコヤガ イネヒメハモグリハエ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植3日前 ～ 移植当日	1回	育苗箱の上 から均一に 散布する。	4回以内 (育苗箱散布は 1回以内、本田で は3回以内)

(6) 0.50%クロチアニジンH粉剤DL

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	カメシ類 ウカ類 ツマゴロコハイ イネコシ イネトムシ ニカメイチュウ フタオビコヤガ	3～4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は 1回以内、本田で は3回以内)
	イネトオイムシ	3kg/10a				
だいた	マシクイガ	4kg/10a	収穫7日前まで			3回以内
	アブラムシ類 カメシ類 フタオビコヤガ	3～4kg/10a				

(7) 20.0%クロチアニジン水和剤 (フロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	イコ類 ウカ類 ツマク・ロヨコハイ カメシ類	5000倍	60~150 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布 は1回以内、 本田では3回 以内)
	ウカ類 ツマク・ロヨコハイ カメシ類	90倍	3L/10a			空中散布	
	ウカ類 カメシ類	24倍	800mL/10a			無人ヘリコプターによる 散布	
		1250倍	25L/10a			散布	
だいず	アブラムシ類 カメシ類 マシクイカ	2500~ 5000倍	100~300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	
	アブラムシ類 カメシ類	24倍	800mL/10a	無人ヘリコプターによる 散布			
ばれいしょ	アブラムシ類	5000倍	100~300 L/10a	収穫7日前 まで		散布	4回以内 (植付時の土 壌混和は1回 以内、植付後 では3回以内)

## 6. 作物残留試験結果

### (1) 分析の概要

#### ① 分析対象の化合物

- ・ クロチアニジン

#### ② 分析法の概要

試料をアセトンで抽出し、多孔性ケイソウ土カラム、中性アルミナミニカラム及びシリカカートリッジで精製した後、高速液体クロマトグラフにより定量する。

定量限界 0.002~0.05ppm。

### (2) 作物残留試験結果

#### ① 稲

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後13<sup>注2)</sup>~28日の最大残留量<sup>注1)</sup>は0.134, 0.104 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。<sup>注3)</sup>

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び1.0%1キロ粒剤を計3回散布（1kg/10a）したところ、散布後13<sup>注2)</sup>~28日の最大残留量は<0.004, 0.026 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.15%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後13<sup>注2)</sup>~28日の最大残留量は0.048, 0.023 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14~22日の最大残留量は0.02, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.07, 0.09 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液

を 0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、並びに 16.0%水溶剤の 4,000 倍希釈液を計 3 回散布 (150L/10a) したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は 0.14, 0.12 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、並びに 0.5%粒剤を計 3 回散布 (4kg/10a) したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は 0.01, 0.02 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、並びに 20.0%フロアブルの 5,000 倍希釈液を計 3 回散布 (150L/10a) したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は 0.12, 0.13 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (3 例) において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、並びに 20.0%フロアブルの 24 倍希釈液を計 3 又は 4 回 RCH 散布 (0.8L/10a) したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は 0.04, 0.16, 0.16 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、並びに 16.0%水溶液の 1,000 倍希釈液を 3 回散布 (25L/10a) したところ、散布後 7~28 日の最大残留量は 0.10, 0.07 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2.5%箱粒剤を 50g/箱及び 20%フロアブル剤の 1250 倍希釈液を 3 回散布 (25L/10a) したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は 0.15, 0.21 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲 (稲わら) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、及び 16.0%水溶剤の 4,000 倍希釈液を計 3 回散布 (150 L/10a) したところ、散布後 13<sup>註2)</sup>~28 日の最大残留量は 0.11, 0.132 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲 (稲わら) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、及び 1.0%1 キロ粒剤を計 3 回散布 (1kg/10a) したところ、散布後 13<sup>註2)</sup>~28 日の最大残留量は 0.118, 0.176 ppm であった。ただし、この試験